

No More Pain, No More Loss

2018年9月28日に国連総会において、世界保健機構(WHO)は低・中所得の国と先進国との間の小児がんの生存に関する乖離について、これを問題として扱うべく新たな世界構想を宣言しました。

毎年、世界中で19歳までの子ども達の内、30万人以上が小児がんを発症しています。その子ども達の内、10人のうち約8人は小児がんの生存率が20%程度の低・中所得の国に住んでいます。この数字は、多くの一般的な小児がんの治癒率が80%を超える先進国との間で際立った違いを示しています。

世界保健機構の世界小児がん構想は、小児がんと闘っている子ども達から全ての苦痛を取り除き、2030年には世界全体で小児がん患者の生存率が少なくとも60%を達成することを目標としています。これは、治癒率は現在のほぼ2倍となり、次の10年の間に、更に約100万人の子ども達の命を救うこととなります。

国際小児がんの日(ICCD)に、私たちは、世界保健機構の世界小児がん構想の目標を支持しつつ、小児がんが国家のそして世界のこどもの優先順位の高い健康問題として取り扱われるよう連携して立ち上がります。2019年国際小児がんの日(ICCD2019)のキャンペーンは、小児がん患児やその家族にとって「No More Pain (もはや痛みを伴わないこと)」、「No More Loss(もはや命を失うことがないこと)」に焦点を合わせます。この目標を達成するため、政府、ヘルスケアプロバイダー、企業、親の支援グループ、そして社会の全体が一早期の正しい診断に対する権利、生命を救う重要な薬に対する権利、適切な質の高い治療に対する権利、苦痛の無い治療に対する権利、治療が不可能な場合は、苦痛を伴わない死に対する権利—を確約しなければなりません。

国際小児がんの日(ICCD)に、私たちは共に、世界のどこで生活しようとも、すべての小児がん患児にとって「No More Pain (もはや痛みを伴わないこと)」、「No More Loss(もはや命を失うことがないこと)」が来る日を見据えて、声を上げていきましょう。